



大清源平南



平川村の清浄堂に  
一  
景

井  
清  
浄  
堂  
の  
景

清浄堂の景



文庫31  
72





けりしそは情白珠しや言蛇巻 唐 寛  
 龍尾州やあふ所は 湘望 飛 鶴  
 遠ひやや和りのま 新並ひ 崇 六  
 墓より今をまをこる井筒の 瑞 英  
 皆入のあふ時刻や 山は暮 豹と助  
 巻やや芭蕉の足命の坪の上 鉄十良  
 藤のけふは 味かやの疾心 三入良  
 けりしそは情白珠しや言蛇巻 瑞 三良  
 野のけふも情白珠しや言蛇巻 首方巻り  
 めんごんのあふ所は 菊の酒 荒入良  
 田中やや珠の提灯 暮 三良  
 雪の早あふ所は 叶のま 後 助  
 雪を吹るあふ所は けりしそは情白珠しや言蛇巻 七

現りあふ新を流しや 新以士 二 朝  
 雲の月衣は紫着帯 瑞 馬心 芦 盾  
 雪もあふ所は 暮り十日色 暮 琴  
 押水のあふ所は 女あふ 和歌 五夫

東京

明月や朝の巻く声 け 巻 冬 十良  
 人のあふ所は 暮り十日色 現 雀  
 蓮のあふ所は 暮り十日色 暮 助  
 源のあふ所は 暮り十日色 暮 十良  
 村のあふ所は 又あふ所は 暮り十日色 九 巻  
 海のあふ所は 暮り十日色 暮 十良  
 五味や朝のあふ所は 水 け 暮 助  
 花のあふ所は 暮り十日色 暮 十良  
 庭のあふ所は 暮り十日色 暮 十良  
 朝夕や 暮り十日色 暮 十良  
 白雲や 蓮のあふ所は 暮り十日色 暮 十良

圓の桶や 白粉のけりしそは情白珠しや言蛇巻 暮 十良

鳥のあふ所は 暮り十日色 暮 十良



團圓補平子句終しす叶うむ  
まきし表

まきし小松竹梅の川をくくうむ  
半四頁

まきしうる友のまのしし馬をま  
ま見藏

額ふ名をけ所る空居や夕影のま  
終進

足跡やまのまのまのまのま  
正作

月井月撮分装や免菊  
八十菊

情をわく思ひのおもひ  
海三頁

のみ情小まのまのまのま  
まお

むくまのまのまのまのま  
浅谷

まのまのまのまのまのま  
三葉

ぬく形をまのまのまのま  
市景を

厂管や井管小舎る月の影  
林くく

菊は春を誇りまのまのま  
孫方夫

群はまのまのまのまのま  
松り丸

分けまのまのまのまのま  
八百萬

まのまのまのまのまのま  
菊 表

ゆきまのまのまのまのま  
延入頁

後を拭く衣の袖や鹿系り  
延 幸

燈籠や日の書くまのまのま  
額 表

遠くゆくや網のまのまのま  
額 又 表

まのまのまのまのまのま  
八百萬 門分中

まのまのまのまのまのま  
延 幸 門分中

まのまのまのまのまのま  
延 幸 門分中



七昨十三回忘は是の  
障ふ

竹しけほくむ苗の

八百五

はゆいし

多那いふは境うんまはち  
まへりし  
まやすあまうらむせや  
まうふりふの川は流さ  
まうおほいゆきん  
うちまうやまう  
まうまうまう

あひし

延善

りし水たす

十三回

弱さかひふまきとまを  
おほいし  
田忘ふりし  
あらしをまう

はく尾中

秋をらひ

小きく

三代目  
延二良

